

油圧引張試験機

TI-80型

あと施工アンカー引張試験機

取扱説明書



適合サイズ

D25 ~ D51

M33 ~ M56



株式会社 トラスト

〒567-0029 大阪府茨木市五日市緑町5番32号
(TEL) 072-621-4164 (FAX) 072-621-4166

目 次

1, 各部名称	P-1
2, 組立手順	P-2 ~ 4
3, 操作手順	P-5 ~ 7
4, 注意事項	P-8

1, 各部名称



センターホールシリンダー

油圧ポンプ

油圧ホース 2本

圧力計

反力台(ラムチェア)

2, 組立手順



あと施工アンカーが内ネジの場合、
適合サイズのボルトをねじ込みます。

! ねじ込みは確実に行ってください。ねじ込みが不
であるとボルト等のねじ山が損傷し、ボルトや機械が
飛び出して事故や怪我を招く恐れがあります。



おねじの場合はボルトのネジに適合する
カブラを取り付けセンターシャフトを
ねじ込みます。

異形鉄筋の場合は から



反力台(ラムチェア)の中心が
ボルトの中心に来るよう設置します。



センターシャフトにセンターホール
シリンダーを通します。

! 壁面及び天井向きの場合、落下による怪我や
機械の破損が考えられます。
必ず落下防止措置を講じて下さい。



ボルトサイズに適合するTI-80用座金、
センターシャフト用のワッシャーの
2枚をセットします。

写真では2枚が見えるようにずらしていますが
実際は真ん中に合わせてください。



ワッシャー、ナットをセットして、
軽く締め付けます。



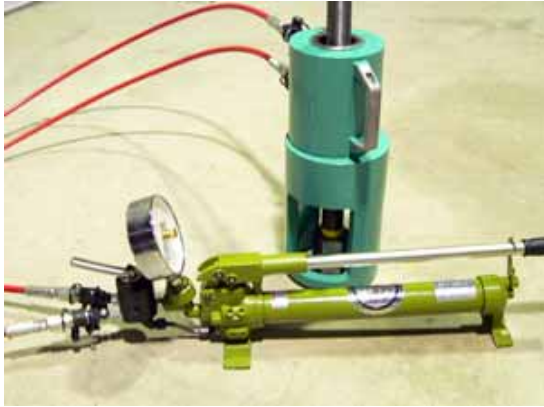
油圧ホースのキャップをはずし、
センターホールシリンダーと油圧ポンプの
カプラにカチッと音がするまで
押しではめ込みます。

**⚠ カプラをしっかりとめ込んで下さい。
隙間があると油もれや故障の原因になります。**

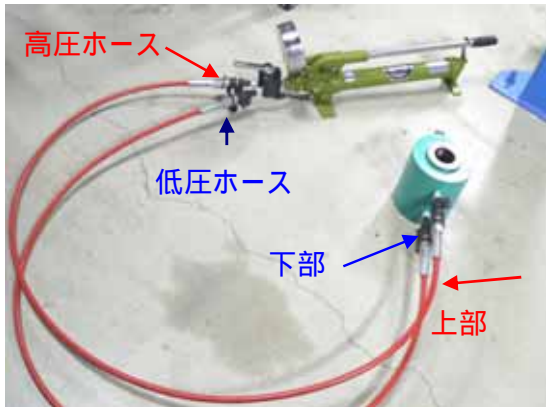


ホースをそれぞれ繋ぎます。

で、センターホール下側(戻り側)に
繋いだホースは写真の方向の手前に
繋いでください。



組立完了



低圧ホースと高圧ホースを繋ぐ際は、
間違えないよう注意して繋いで下さい。

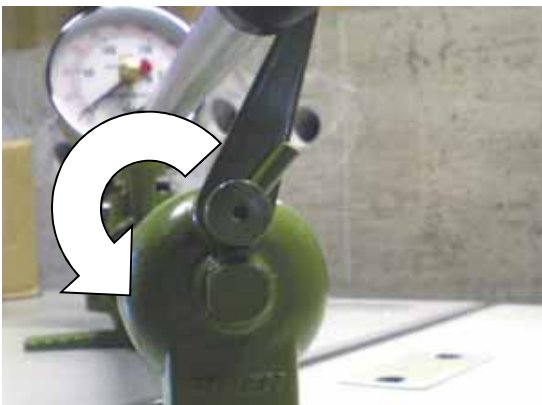
3, 操作手順



圧力計の置針を“0”に合わせます。
(圧力計中央のツマミを回すと赤針が回ります)




レバー握り部を手で上から押して、
ロックピンを外します。



ポンプ後部の空気弁を左に回して
空気弁を開放します。

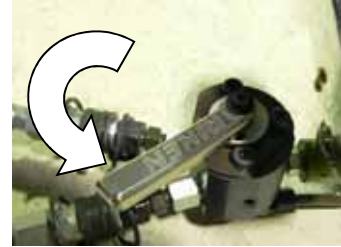


油圧ポンプの出戻バルブを右方向
(圧力計の方向)に回します。

 (停止するまで回してください。但し工具等を使用すると破損の恐れがありますので必ず手で回してください。)



方向制御弁のハンドルを加圧側に切り替えます。



レバー握り部を片手で持ち、上下に作動してゆっくり加圧します。

上下作動が困難になってきましたらレバーをあまり持ち上げないようにして両手で作動させます。

⚠ 注意: ボルトの先端に顔、体を向けない
針の指す部分が最大荷重です。



確認試験が終わりましたら、方向制御弁を減圧側に切り替えます。





レバー握り部を片手で持ち、上下に作動してゆっくり減圧します。

必ずシリンダーが戻るまでポンプを上下して、ホースはジャッキ側を先に外しその後ポンプ側を外してください。

使用後

- ・方向制御弁のハンドルを中央に戻して下さい。
- ・空気弁を全閉にして下さい。
- ・レバー握り部をロックピンで固定して下さい。
- ・油圧ホースを外して下さい。
- ・カプラには必ずキャップを付けて下さい。

4, 注 意 事 項

- 1, 説明書をよく読み理解してから、ご使用ください。
- 2, 指定用途以外には、使用しないで下さい。 損害、怪我を招く恐れがあります。
- 3, 圧力計には、急激なショックを与えないで下さい。 故障の原因となります。
- 4, 油を使用しているため、火気の附近や溶接作業を行っている場所では使用しないで下さい。
- 5, 使用中油温が60 を越すと圧力が上がらない場合があります。冷却後、使用して下さい。
- 6, 油が目に入った場合は、清浄な水で15分間洗浄し、医師の診断を受けて下さい。
- 7, 油が皮膚に触れた場合は、水と石鹼で十分に洗ってください。
- 8, 油を飲み込んだ場合は、無理に吐かせず、直ちに医師の診断を受けてください。

『引張荷重について』

あと施工アンカー引張試験での引張荷重は、それぞれの現場、または、設計事務所に
よって多少異なる場合があります。

設定荷重値は設計事務所、または、現場監督に確認した後、引張試験を行って下さい。

本機は非破壊試験機です。母材の破壊やアンカーボルトの破断等のないよう、
加える荷重には十分注意してください。